ひろしま

自治労連

広島自治労連　2026年 8月号

発行所　広島県自治体労働組合総連合
〒730-0051　広島市中区大手町4丁目2−27中央レジデンス405号
TEL 082-243-9240／E-mail　hjrouren@urban.ne.jp
FAX 082-243-9241／ホームページ　http://urban.ne.jp/home/hjrouren/
編集・発行　広島自治労連教育宣伝部
定価　1部10円　組合員の購読料は組合費に含まれています

原水爆禁止2026年世界大会

「被爆者とともに核兵器のない平和で公正な世界を 人類と地球の未来のために」

― 核抑止力論は破綻、世界中で連帯し核兵器廃絶の実現を ―

(上↑)被爆証言集を朗読する長妻さん
(中央→)原水爆禁止世界大会の様子

(右→)「広島からのよびかけ」を読み上げる宮宇地さん

8月4日から6日、広島で「被爆者とともに核兵器のない平和で公正な世界を―人類と地球の未来のために」をテーマに、「原水爆禁止2026年世界大会」が開催され、関連行事も含め国内外からのべ約1万人が参加、広島自治労連から100人近い仲間が参加しました。

4日の開会総会では、被爆者が改憲ではなく核廃絶と恒久平和の実現を、海外代表はいかなる政府も核爆発には対応不可能だから軍拡競争ストップを訴えました。市民と議員の対話では、多数派の議員ではなく市民が政治を動かしている現状と、核抑止力論の破綻を政府に認めさせていく決意が述べられました。

5日は15の分科会、1つのフォーラムが行われました。

6日の閉会総会では、広島市職労の長妻藍さんが被爆証言集「木の葉のように焼かれて」を朗読、被爆者からは被爆体験を継承することで核のない未来へつなげていこう、海外代表からは今後も連帯し核兵器廃絶に取り組む決意を語りました。

最後に世界大会「広島からのよびかけ」を広島市職労の宮宇地(みやうち)奈緒美さんが読み上げ、満場の拍手で採択されました。よびかけでは、核兵器廃絶は人類の死活にかかわる緊急課題ゆえ、「被爆の実相」をひろげ、核兵器の非人道性を告発しよう、日本政府に「非核3原則」を堅持させること等を呼びかけています。

広島自治労連は全組合員とともにこの呼びかけの具体化を進めていきます。

市職員原爆犠牲者慰霊献花行動

… 全国から折り鶴や花束が届く …

8月6日9時～9時30分まで、広島市職員原爆犠牲者慰霊献花行動を行い、全国の自治労連の仲間約50人が参加し、市役所前にて、81年前原爆が投下された翌日から奮闘された職員の方々のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げました。

自治労連中央執行委員長の福島功さんは、戦後日本は攻めることも攻められることも無く過ごしてきたのだからこれを続けていくことが大切だと語りました。

広島市役所職員労働組合書記長の木下克己さんは、1947年に施行された憲法に基づいて1949年8月6日に施行された広島平和記念都市建設法の理念の大切さなどを語りました。

続いて、全国から寄せられた折り鶴や花束を捧げました。平和への取り組みに対して改めて考え、思いを新たにしました。

2026人事院勧告

希望と意欲もてる賃金実現へ要求の前進を

＜本年度のポイント＞

●月例給：民間給与を15056円(3.51%)下回るとして、すべての世代に及び俸給表を引き上げるとした。

特に、業務遂行に重要な役割を担う中堅層以上の職員について2025年を上回る改定を行い、行政職(一)平均改定率3.3%。モデル試算した定期昇給分を加えると月収約4.9%の改善。

再任用職員については、係長級の官民格差をベースに月例給改善。行政職(一)全体の平均改定率8.5%。

●初任給
総合職(大卒)：+9500円(+3.9%)
一般職(大卒)：+9500円(+4.1%)
一般職(高卒)：+9500円(+4.7%)

●一時金：0.05月(再任用職員も0.05月)を期末・勤勉手当で等分に引き上げる。

●人事制度見直し：2027年度に具体を報告
本府省幹部職員等対象の俸給表新設、能力・実績主義の人事運用の徹底

8月7日、人事院は国会と内閣に対して、国家公務員の給与改定に関する勧告と報告を行った。

ポイントは左記の通り。改善が急がれる。すべての世代に及ぶ俸給表を引き上げるとし、特に再任用職員は8.5%の大幅引き上げとしたのは、豊富な知識と経験で現場を支える切実な実態を粘り強く訴えてきた成果である。

しかし、収束の見えない物価高騰に対して生活改善を可能とする水準ではない。
人事制度見直しとは本府省優遇、能力・実力が重用され、職場のチームワークを壊し、モチベーション低下になりかねない。

秋の闘いでは希望と意欲をもてる賃金制度、住民本位の行政づくりへ奮闘する。

Let's Go 自治研

第18回

地方自治研究国集会in広島 その④

数ある自治研分科会の中から第8分科会をご紹介！

第8分科会では、「保育の現場で〝権利〟を考える」をテーマに、保育を取り巻く環境が大きく変化するなかで、子どもの権利と保育労働者の権利を守るために何が必要なのかを考えます。

「こども誰でも通園制度」の実施や深刻化する保育士不足など、保育現場にはさまざまな課題が生まれています。子どもが安心して過ごし、保育者が誇りとやりがいを持って働き続けるためには、どのような環境や制度が必要でしょうか。

広島からは、「豊かな保育をすすめる会」が広島市職労保育園支部とともに取り組んできた運動について報告します。

子どもと保育者の権利を守るために、みんなで学び、語り合いましょう。たくさんのみなさんの参加をお待ちしています。

集会内容は
2次元コードから

核兵器なくそう女性のつどいの参加者

自治労連「ピースフラッグ」で原爆ドームを囲む

被爆証言に耳をかたむけ 「反核平和」の声を

第48回自治体労働者平和のつどい

～政治に関心を持ち、平和を築こう～

松本滋恵さん

8月5日（水）夕方、第48回自治体労働者平和のつどいが開催され、全国から94人、広島自治労連から18人が参加しました。被爆証言では元広島市職員の松本滋恵さんがお話されました。

松本さんは爆心地から3ｋｍの親せき宅で被爆。本来なら爆心地から500mの実家に戻る予定だったが、夜遅いため戻らず、今も生かされている、と話されました。

6日は、目の前に橙色の火の玉が落ちたことをよく覚えている。自分はケガはなかったが、壁には人一人が入る穴が空いており、そこから外に出た。1週間は外に蚊帳を吊り野宿。3日後から実家に弟と向かったが、跡形もなく、そこら辺に死体が転がり、乳母車を押すのが大変だったと話されました。

その後、命がけで原爆文学を出版された文学者のことを知り、自身もその気迫に押され、77歳で文学博士を取得、原爆文学者について著書を出版されました。

最後に、原爆は自分の生きざまであり、道しるべ。政治に関心を持ち、平和を築こう、9条を守ろうと呼びかけられました。

つどい後半は、被爆2世、被爆証言伝承者も加わりグループ交流を行い、反核平和の気持ちを強くしました。原爆ドーム前で「ピースフラッグ」を掲げ終了しました。

核兵器なくそう女性のつどい2026

～世界各地から核兵器廃絶の声を～

8月5日（水）夜、「核兵器なくそう女性のつどい2026inヒロシマ」が開催され、全体で590人、広島自治労連から32人が参加。

「被爆の実相―被爆体験者から」では被爆者の竹本秀雄さんがお話されました。

当時3歳だった竹本さんは、鷹野橋筋のご自宅で被爆されました。学徒動員されていたお姉さんは、似島に収容されていましたが、ほどなく亡くなられました。後になって、竹本さんがお兄さんに背負われた様子がフィルムに撮影されていたことが分かったそうです。竹本さんは、人を憎まず、人を愛しましょう、と語られました。

続いて、海外からの発言があり、平和や核兵器廃絶に、女性が果たす役割の大きさについて、戦争による貧困などの問題を個人ではなく社会の問題だとは言えなかったことを指摘され、声をあげることの大切さを伝えられました。運動交流や憲法前文&9条朗読タイムなどがあり、世界各地からの核兵器廃絶の願いを実感するつどいとなりました。

◆広島市職員労働組合

7月12日(日)、第114回定期大会を県健康福祉センターで開催。柴野執行委員長は、働き続けたい職場にするため、要求を訴えていこうと挨拶。

執行部から人材確保のためすべての職員の勤務条件整備、実効あるハラスメント対策、10月の全国自治研成功への取り組みを提案。また、労働者のための政治経済政策にする必要性を主張。

現場からは7名が発言、執行部の提案を補強し、全議案は採択され終了しました。

◆広島市動植物公園職員労働組合

7月12日(日)、第34回定期総会を開催。来賓の中村自治労連副執行委員長をはじめ、ご協力に感謝します。総会では、来年度導入の指定管理者スライド制度への理解促進と当局への要求、厳格化するアニマルウェルフェアへの早急な対応、赤字改善やツキノワグマ対策の進捗注視について組合員の心を一つにしました。マルミミゾウやチーターの出産が続く中、職員と動物の頑張りを無駄にせず一丸となり努力を続けます。

◆広島市ひと・まちネットワーク職労

7月28日(火)、第31回総会をまちづくり市民交流プラザで開催。

活動報告では、ひとまち労組が20年以上訴えてきた遅番制度の変更がやっと実現できたこと、8人もの欠員と再雇用嘱託員の更新の課題などをひと・まち管理課に、青少年受入れのモデル事業について市議会議員に訴えた活動などを報告しました。

役員改選では、5年ぶりに委員長が交代になり、廣目千恵美さんが新委員長に承認されました。

◆広島市会計年度任用職員労働組合

7月28日(火)、本庁舎15階で第18回定期大会を開催。亀井委員長が経過報告と運動方針案を提案。会計年度任用職員の制度ができて賃金、特に初任給は上がったが、長年継続して勤務しているベテラン職員は変わらなかったという人も多い。フルタイムには退職金制度があるが、パートタイムは規定されていない。今後も引き続き、制度改善に取り組んでいこう」と訴えました。現場の職場実態をしっかり報告し、改善しようと意思統一しました。

◆広島市文化財団職員労働組合

8月10日(月)午前、第18回総会を広島自治労連会議室で開催しました。

運動方針では、引き続き労働条件の改善や適正な人員配置などを訴えていくことや、次年度の役員体制などについて確認しました。

あわせて、翌々年度以降の執行部の定年に伴う人員体制について意見を交わしました。

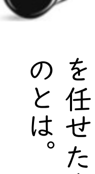
■非正規連絡会ヒロシマ
「秋の学習総決起集会」
9/2(水)19:00～20:30終了予定
アステールプラザでオンライン併用開催
学習会「賃金の仕組みを知ろう」
職場からリレートーク
秋の行動提起等。
お問い合わせは広島自治労連へ。

■広島自治労連第37回定期大会
11月1日(日)11時～17時
ロードビル3F大会議室でオンライン併用で開催
午前：仲間づくりについて
午後：定期大会
経過報告、運動方針、決算、予算、役員選挙等。各単組、補助組織からご発言願います。

読みたい1冊
「茶色の朝」

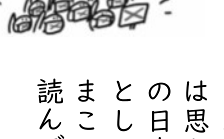
今の日本社会、どのように感じていますか
「一色」に染められつつありませんか？

カフェでとりとめのない会話を続ける二人の男。いつもの朝。ある日、主人公は友人から、飼っていた犬を始末したと聞かされる。理由は「茶色の毛ではなかったから」。政府が茶色以外のペットを飼わないよう奨励する声明を出したためだ。主人公もすでに白黒の猫を処分していた。



時は流れ、男と友人の朝のコーヒータイムは続くが、社会は少しずつ「茶色」に染まっていく。政府に反対する新聞は廃刊となり、図書館の本も制限される。それでも二人は「茶色に守られた安心も悪くない」と自分に言い聞かせ、茶色のペットを飼い始める。

「自分には関係ない」「仕方ない」「政府が決めたことだから」――違和感を放置し、流れに身を任せた先に待つものとは。



２００２年にフランスで出版され、日本では翌年に翻訳版が刊行された『茶色の朝』。日本版には哲学者・高橋哲哉氏の解説も収録されている。

約20年前の作品とは思えないほど、今の日本社会への警鐘として響く一冊。いまこそ、多くの人に読んでほしい。